



グローバル人材の育成に向け、生徒が多様な活動に挑戦！

普通科
探究科

将来国際社会で活躍するグローバル人材の育成に取り組む本校は、海外の高校生や大学生などとの交流に加え、海外研修の実施やスピーチコンテストへの参加に取り組んでいます。いくつかの行事を紹介します。

探究科の2年次生が、校外研修でシンガポールやマレーシアを訪問！

12月9日(土)から13日(水)に探究科の2年次生を対象として実施した校外研修(修学旅行)において、シンガポールやマレーシアを訪問しました。本研修は、探究科の第1期生(令和元年度卒業)と第2期生(令和2年度卒業)を対象として実施しました。



マレーシア工科大学で大学生とディスカッション



バティック染めを体験

しかし、そのうち、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3年間は、国内での研修で代替してきましたが、このたび第6期生で再開することができました。



研修の成果をポスターにまとめて英語で発表

今年度は、福岡空港から日本を出国後、韓国の仁川空港を経由してシンガポールに向かいました。シンガポールへの到着は、日付が変わった深夜でした。2日目は、午後からシンガポール国立大学等の学生のみなさんと班別自主研修を行いました。大学生が所属する大学の一つであるシンガポール国立大学は、アジアでも屈指のレベルを誇る大学です。初対面の学生のみなさんと英語でコミュニケーションをとりながら、地下鉄やバスを使って移動するのは大変でしたが、終了するころには学生とすっかり打ち解けた様子が見られ、とても充実した経験になったようでした。3日目には、シンガポールを出国しマレーシアに向かいました。マレーシアでは、マレーシア工科大学を訪問し、現地の先生から英語で講義を受講したのち、大学生と「地球温暖化の防止」をテーマとしたディスカッションを行いました。



シンガポール市街を散策

マレーシアからシンガポールに戻ったのち、4日目には、これまでの研修の成果を英語でポスターにまとめました。バスなどシンガポールの公共交通機関や食べ物の特徴をまとめたものや多民族国家であるシンガポールの人々が様々な言語を使って日常生活を送っている様子をまとめたポスターをつくることができました。最後に英語でポスターセッションを行い、研修の成果を確かめ合うことができました。

4日足らずの滞在でしたが、マレー文化村でのバティック染を体験したり、シンガポールのユニバーサルスタジオを楽しんだりするなど、普段の生活とは言語や文化が異なる環境での活動により、グローバル社会を垣間見ることができました。

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。

5th Annual High School English Speech Competition 2023に出場!

山口学芸大学が主催する、5th Annual High School English Speech Competition 2023 に探究科の2年次生1人が参加しました。1月19日(日)に開催された大会には、山口県外からの参加を含む15人の高校生が参加し、それぞれが事前に示されたテーマに沿って4分30秒から5分30秒でスピーチをしました。本校から参加した生徒は、学習の結果をテストなどにより評価することも大切だが、普段の努力を評価することも大切であると述べることができました。これからも、英語を活用する資質や能力の向上に努めてください。



参加した探究科の2年次生

探究科2年次の家庭班が、第9回全国ユース環境活動発表大会中国地方大会に出場!

探究科

環境省などが主催する、第9回全国ユース環境活動発表大会中国地方大会に、探究科2年次の表に示した6つの研究班が応募しました。一次選考の結果、12月23日(土)に広島県広島市のTKPガーデンシティ広島駅前大橋で開催された中国地方大会に家庭班が出場することができました。高校生が日ごろから取り組む環境活動やSDGs活動の成果を発表する本大会には、中国地方の5つの県から20チームの応募があり、一次選考で選ばれた12チームが会場で発表しました。

第9回全国ユース環境活動発表大会中国地方大会に出品した研究班と研究テーマ等

研究班	研究テーマ	結果
公民	紙の分解におけるゴミの削減と資源循環	
化学1	シリカゲルB型の溶媒の吸着による温度上昇	
化学2	プラスチックを有効活用するために	
生物1	ユーグレナのパラミロン含有量と環境との関係性	
生物2	身近な細菌を用いた生ごみの効率的な分解に関する研究	
家庭	二酸化炭素を吸収する布をつくる	優秀賞



中国地方大会で発表する家庭班の生徒

出場した家庭班は、環境問題の1つとして取り上げられている空気中の二酸化炭素の増加を防ぐ方法について研究

してきました。私たちが普段着用している服に、二酸化炭素を吸収させる機能を付加させるため、布に藻類を生息させ、光合成により二酸化炭素を酸素に変えることを目標にしています。研究においては、乾燥に弱い藻類を用いるため、藻類の種類を変えたり布に適度な湿気をもたせる工夫をしたりしました。残念ながら、全国大会には届きませんでした。このたびの発表を振り返り、次の発表会に向けて準備を進めてください。



優秀賞を受賞した家庭班の生徒

第34回日本数学オリンピックに、13人の生徒が挑戦しました。

普通科

探究科

1月8日(月)に開催された、第34回日本数学オリンピック(JMO)の予選に、普通科の2年次生が1人、探究科の1年次生が7人、2年次生が5人参加しました。本校の生徒13人は、福岡県北九州市にある福岡県立小倉高等学校の明陵会館で実施された予選に参加しました。予選では12問が出題され、この結果から上位200人が本戦に進むことができます。昨年度は、8問以上正答した場合、予選を通過することができました。また、本戦では、上位20人が第65回国際数学オリンピック(IMO)の日本代表の候補となることができます。参加した生徒のみなさんの吉報を待ちましょう。



第34回日本数学オリンピックに参加した生徒

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。